

上海の大気汚染

岡山県上海事務所 池田 稔

(日中経済貿易センター上海事務所 所長)

最近、中国の大気汚染について日本で多くの報道がなされていますので、改めてここ上海での現状について御紹介します。

経済発展と環境問題

中国では 1978 年の改革開放以降の急速な経済発展に伴い多くの問題が発生していますが、メディアの発達や市民意識の向上を背景として、市民の環境に対する関心がますます高まっています。

現在、第 12 次 5 カ年計画の下、資源節約型の環境にやさしい社会建設を目指していますが、環境問題の現状について中国環境保護部周生賢部長は、「先進国が 100 年、200 年かけて経験した問題を改革開放以降の 30 数年間で一気に経験。構造的、連続的、凝集的、複合的に問題が発生。一部はできているものの全体としてはコントロールができておらず、形勢は依然として厳しく、プレッシャーはなお増大。」(2012 年 11 月) と記者会見で語っています。

上海の大気汚染

特に今年の冬に発生した大都市の深刻な大気汚染は市民の高い関心呼びました。近年の上海の大気汚染は改善傾向にあったものの、今年 1 月は環境基準を超過した日が 18 日に達しました。現在の上海の大気汚染は日本の 1970 年代レベルとも言われています。当時、日本では深刻な公害により健康被害が多発し、様々な対

策が採られました。上海市でも現在各方面での対策を取っていますが、人口の増加、経済活動 (GDP) の増加、エネルギー消費量の増加、自動車の増加などにより環境対策の効果が相殺されているとのこと。

上海市政府の対応

現在、上海では上海市環境保護局がインターネット上の「上海市空気品質速報システム」(写真①)により PM2.5 をはじめとするデータを随時発表しています。イラストで汚染の程度をわかりやすくし、注意事項を掲示したり、携帯電話の天気予報にも空気汚染指数のアプリケーション(写真②)を追加するなどして、情報公開を進め、市民に相応の対策をとるよう促しています。

市民の対策としては汚染の激しい日は不要不急の外出をさける、外出の際はマスクを着用する、帰宅後は手洗い・うがいをする、長時間過ごす部屋には空気清浄器を設置する、などがあげられます。子供たちは大人よりも大気汚染によるリスクが高いためより一層の注意が必要です。すでに上海の日本人学校などでは汚染指数により体育の授業を中止するなどの対策も取られています。

経済が発展途上の中国ではこれからも環境問題が続くと思われます。日本は高度経済成長から現在まで様々な環境問題を経験してきました。国、地方、企業がそれぞれのレベルで対策を取り、経験や技術を備えてきました。今後、中国が必要とする環境対策についても一定の貢献が

できるのではないのでしょうか。



写真①:「上海市空気品質速報システム」

URL:

<http://www.semc.gov.cn/aqi/home/Index.aspx>



写真②:「携帯電話のアプリケーション」

(2013年3月)